

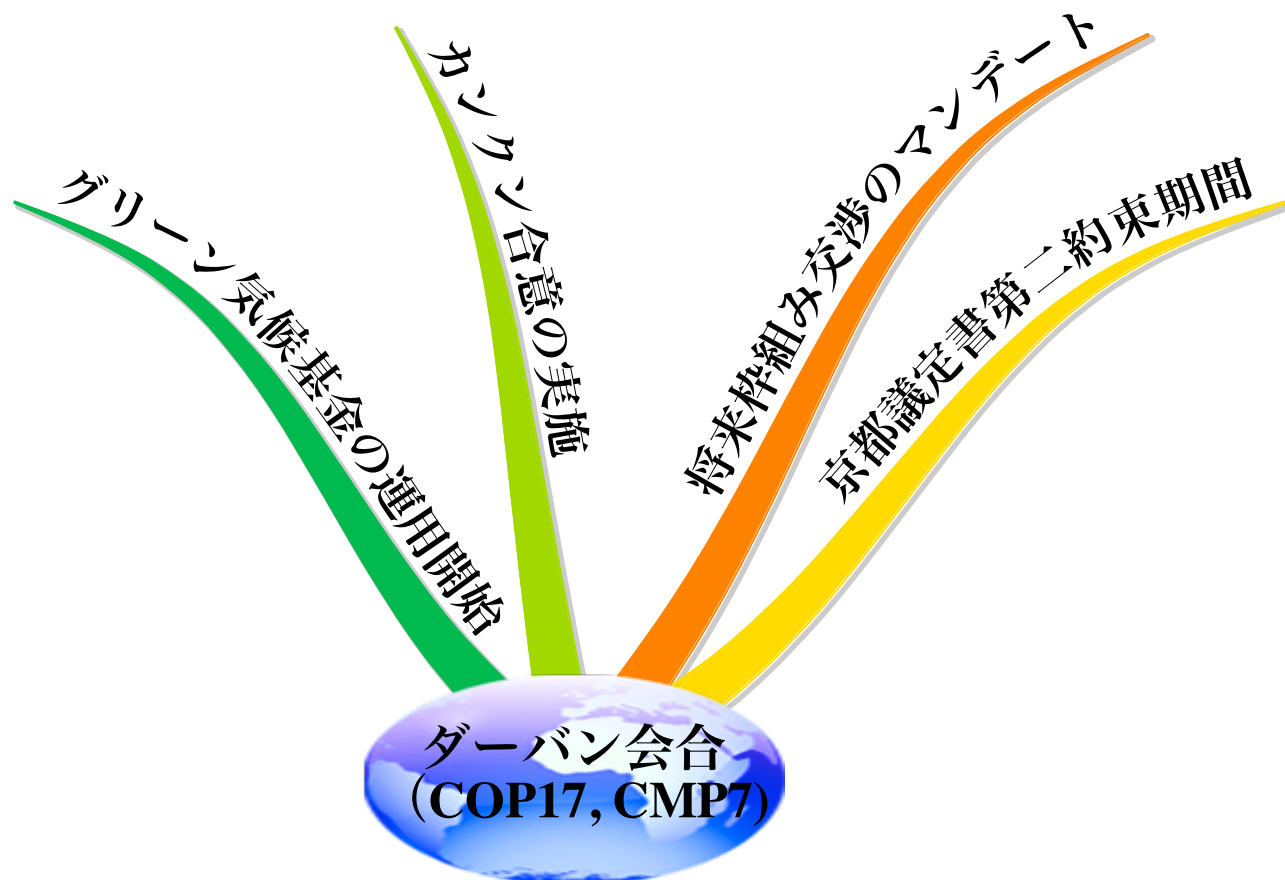
# 資金編

---

国連気候変動枠組条約  
ダーバン会合NGO報告会  
2012年1月10日

# ダーバン会合への期待

---



# ダーバン迄の主な論点

---

- 初期資金（2010-2012）後の資金ギャップ
- グリーン気候基金の資金の確保
- 緩和、適応間のバランス
- 技術移転や適応活動と基金の関係
- 公的資金と民間資金、炭素市場の役割
- 先進国の途上国支援義務のモニタリング強化（資金MRV）
- 国連気候変動条約内外の支援機関、基金運用の重複回避、効率化
- グリーン気候基金の法人格とダイレクトアクセス
- 世銀の役割
- 革新的資金源の確保

# グリーン気候基金

---

- 移行委員会の基本設計文書を採択。グリーン気候基金を正式に条約資金メカニズムに設置。今後の温暖化支援の柱とする
- 24ヶ国構成の理事会（先進途上半々）の設置
- 締約国会合（COP）との関係（理事会及び事務局長選出の承認、信託機関選定他）は次回会合
- 基金自体が法人格を有し、途上国機関が直接基金から拠出を受ける事が出来る（Direct Access）
- 基金のホスト国選択は理事会が行い次回会合（COP18）で承認を得る
- 独立した基金事務局の設置。

二年間の暫定事務局は条約事務局と地球環境ファシリテーターのスタッフで構成

- 暫定的に世銀が信託機関を担う

三年後に再検討。理事会が信託機関選択の手続きを定める

- 当面緩和と適応のウィンドウから
- 途上国でのプロジェクト、政策ベースの双方に拠出
- 国別指定機関（National Designated Authority）の限定された役割
- 直接基金から融資等を得られる民間セクターファシリテーターの設置
- 環境・社会基準や財務基準のガイドライン。市民社会代表を含むステークホルダーのオブザーバー参加、理事会決定へのアピールメカニズム設置など

## ● 資金に関する常設委員会

- 先進国と途上国各々10ヶ国で構成
- 制度上の位置付け：助言機関。COPへ直接報告、隔年報告書提出、独立レビューなど
- 作業計画を次回会合（COP18）で承認
- 新規資金源確保、長期資金目標への言及は削除された
- 公的資金、民間資金の区別は明示されていない
- 先進国資金拠出義務履行状況の報告詳細（資金MRV）は先進国隔年報告ガイドラインに移されたが、既存の国別報告フォーマットに基づく

## ● 長期資金

- 初期資金（2010-2012）、長期資金目標（2020）に言及するも初期資金の透明性強化に留まる
- COP17議長指名による二名の共同議長による2013年以降の支援強化の為の一年間の作業計画、ワークショップなど
- 具体的なオルタナティブな資金源（国際運輸への課税、国際通貨取引税等）は削除
- 公的資金の役割を強調する途上国提案は盛り込まれず
- グリーン気候基金への言及は盛り込まれず
- 長期資金への途上国によるダイレクトアクセスの担保は盛り込まれず

# 未解決の課題、懸念材料

---

- 初期資金（2010-2012）後の2020年迄の資金ギャップ
- グリーン気候基金（GCF）は未だ器だけで中身（資金調達）はこれから
- 公的資金主体なのかあいまい。炭素市場含む民間資金の役割拡大への懸念
- GCF理事会の国連気候変動枠組条約会合（COP）への責任の定義は次回会合へ
- カンクンで合意された2020年迄に年間1000億ドルの新規資金の調達をどう担保するのか？長期資金議論は骨抜きに終わった
- 先進国の途上国支援義務の履行のモニタリングは既存のガイドラインに基づきあいまい。基本ニーズ開発援助の転用への懸念。

適応コスト

必要となる投資（緩和）

**210**

既存ODA  
≈128

カンクン合意  
100

化石燃料補助金廃止 ≤8

国際炭素税 ≤18

FTT ≤27

国際海運 ≤19

国際航空 ≤6

GCF

(UNFCCC資金)

LDCF ≤1  
SCCF ≤1  
AF ≤2  
GEF ≤1

世銀CIF ≤6.8?

単位10億米ドル年

## 対策コストと資金のギャップ

Sources: Investment and financial flows to address climate change: an update (FCCC/TP/2008/7), Report of the Secretary-General's High-level Advisory Group on Climate Change Financing (2010), Background note: Comparison of relevant funds and institutions, TC2, 2011.

有り難うございました

FoE Japan 顧問  
小野寺 ゆうり  
[www.foejapan.org](http://www.foejapan.org)